

7-21 <div>歌川国貞</div> 源氏後集余情 三十の巻 ふちばかま 安政 5（1858）年／大判錦絵 2枚組	7-35 <div>歌川芳艶</div> 高松城水責之図 元治元（1864）年／大判錦絵 3枚組	7-51 <div>歌川国芳</div> 坂田怪童丸 天保 7（1836）年頃／大判錦絵	7-67 <div>歌川国貞</div> 二十四好今様美人 祭り好 文久 3（1863）年／大判錦絵
7-22 <div>歌川国貞</div> 源氏別荘の月 安政元（1854）年／大判錦絵 3枚組	7-36 <div>歌川貞秀</div> 太平記六波羅合戦 楠木正行 夜討に尊氏丹波へ退く 安政 6（1859）年／大判錦絵 3枚組	7-52 <div>楊洲周延</div> 江戸風俗十二ヶ月之内 八月月見之宴 明治 22（1889）年／大判錦絵 3枚組	7-68 <div>豊原国周</div> 花萇蒲郭之三美人 明治 4（1871）年／大判錦絵 3枚組
7-23 <div>楊洲周延</div> 高貴納涼ノ画 明治 20（1887）年／大判錦絵 3枚組	【後期 12月22日～2月20日】 7-37 <div>溪斎英泉</div> 猿若町芝居之略図 天保 13（1842）年頃／大々判錦絵	7-53 <div>歌川国貞</div> 暦中段つくし 取 意勢固世身見立 十二直 極月の餅搗 弘化 4（1847）年～嘉永 5（1852）年	7-69 <div>歌川芳虎</div> 江戸の花子供遊び 江組五番組 安政 5（1858）年／大判錦絵
7-24 <div>歌川貞秀</div> 神奈川横浜新湊港崎町遊廓 花盛之図真景 万延元（1860）年／大判錦絵 3枚組	7-38 <div>歌川芳宗</div> 2代歌川芳宗 市川右団次東京新富座江乗込之図 明治 15（1882）年／大判錦絵 3枚組	7-54 <div>歌川芳富</div> 有掛絵 五月十七日土水性ノ人有卦に入七ヶ之間万吉 元治元（1864）年／大判錦絵	7-70 <div>歌川芳虎</div> 江戸の花子供遊び 糸組五番組 安政 5（1858）年／大判錦絵
7-25 <div>溪斎英泉</div> 契情道中双ろく箱根 見立よしわら五十三つい 岡本屋内瓜生野 文政 8（1825）年頃／大判錦絵	7-39 <div>歌川国貞</div> 助六 安政元（1854）年／大判錦絵 2枚組	7-55 <div>歌川広景</div> 青物魚軍勢大合戦之図 安政 6（1859）年／大判錦絵 3枚組	7-71 <div>歌川国芳</div> 通俗水滸伝豪傑百八人之一個 九紋龍史進 跳満虎陳達 文政 10（1827）年頃／大判錦絵
7-26 <div>溪斎英泉</div> 廓の四季志吉原要 五端午 初のあやめ 松葉屋内代々山 文政 6（1823）年頃／大判錦絵	7-40 <div>月岡芳年</div> 月百姿 深見自休 明治 20（1887）年／大判錦絵	7-56 <div>柳亭種彦作 歌川国貞画</div> 修紫田舎源氏 二十五編 天保 9（1838）年頃／版本	7-72 <div>豊原国周</div> 団七九郎兵衛 市川団十郎 明治 16（1883）年頃／大判錦絵 3枚組
7-27 <div>月岡芳年</div> 風俗三十二相 しなやかそう 天保年間傾城之風俗 明治 21（1888）年／大判錦絵	7-41 <div>歌川国貞</div> 本朝丸網五郎成田山之御利益二而危一命ヲ助ルノ処 嘉永 4（1851）年／大判錦絵 3枚組	7-57 <div>一筆庵主人（柳下亭種員）作 歌川国貞画</div> 其由縁鄙迺佛 十六編 安政 7（1860）年／版本	7-73 <div>歌川芳虎</div> 太平記 四国征伐 慶応 3（1867）年／大判錦絵 3枚組
7-28 <div>歌川国芳</div> 木曾街道六十九次之内 上尾 三浦の高雄 嘉永 5（1852）年／大判錦絵	7-42 <div>歌川国貞</div> 見立三十六歌撰之内 藤原敏行朝臣 累の亡魂 嘉永 5（1852）年／大判錦絵	7-58 <div>歌川国貞</div> 源氏絵物語 葵 弘化元（1844）年頃／中判錦絵	7-74 <div>歌川国芳</div> しじょうをわて 四条騒 の戦い 安政 4（1857）年／大判錦絵 3枚組
7-29 <div>2代歌川国貞</div> 隅田川岡の賑ひ 安政 3（1856）年／大判錦絵 3枚組	7-43 <div>歌川国貞</div> 喜の字つくし キセル 文久元（1861）年／大判錦絵	7-59 <div>歌川国貞</div> 今源氏錦絵合 葵 嘉永 5（1852）年／中判錦絵	7-75 <div>歌川国芳</div> 和田合戦 美秀惣門押破 嘉永 5（1852）年／大判錦絵 3枚組
7-30 <div>歌川芳艶</div> 江戸花夜の賑 万延元（1860）年／大判錦絵 3枚組	7-44 <div>歌川国貞</div> 喜の字つくし きられ與三 文久元（1861）年／大判錦絵	7-60 <div>歌川国貞</div> 源氏後集余情 二乃巻 ははき木 安政 4（1857）年／大判錦絵 2枚組	8-1 <div>大澤未来</div> 彼らからの視線 2021年／映像／作家蔵
7-31 <div>月岡芳年</div> 新撰東錦絵 神明相撲闘争之図 明治 19（1886）年／大判錦絵 2枚組	7-45 <div>歌川国貞</div> 喜の字つくし 生八丈 文久元（1861）年／大判錦絵	7-61 <div>歌川国貞</div> 源氏後集余情 十のまき 花の宴 安政 5（1858）年／大判錦絵 2枚組	9-1 <div>田村友一郎</div> 予期せぬギフト 2021年／ミクストメディア／10分 20秒／作家蔵
7-32 <div>歌川国芳</div> 木曾街道六十九次之内 浦和 魚屋団七 嘉永 5（1852）年／大判錦絵	7-47 <div>歌川国貞</div> 喜の字つくし 紀の有つね 文久 2（1862）年／大判錦絵	7-62 <div>2代歌川国盛</div> 源氏絵四図 慶応元（1865）年／大判錦絵 3枚組	10-1 <div>KOSUGE1-16</div> インバウンドおじさん 2021年／ミクストメディア／作家蔵
7-33 <div>歌川国芳</div> 木曾街道六十九次之内 下諏訪 八重垣姫 嘉永 5（1852）年／大判錦絵	7-49 <div>歌川国貞</div> 中村座三階図 文政 7（1824）年頃／大判錦絵 3枚組	7-63 <div>楊洲周延</div> 御遊覧御休憩之図 明治 22（1889）年／大判錦絵 3枚組	11-1 <div>向井山朋子</div> パフォーマンス「gift」（イメージ映像） 2021年／映像／1分 29秒
7-34 <div>豊原国周</div> 地名十二ヶ月之内十一月 加藤清正 市川左団次 明治 15（1882）年頃／大判錦絵	7-48 <div>歌川国貞</div> 中村座三階図 文政 7（1824）年頃／大判錦絵 3枚組	7-64 <div>豊原国周</div> 花盛美人揃 安政 6（1859）年／大判錦絵 5枚組	
7-35 <div>楊洲周延</div> 江戸砂子年中行事 端午之図 明治 18（1885）年／大判錦絵 3枚組	7-50 <div>楊洲周延</div> 江戸砂子年中行事 端午之図 明治 18（1885）年／大判錦絵 3枚組	7-65 <div>豊原国周</div> 見立屋夜廿四時之内 午前二時 明治 23（1890）年／中判錦絵	

「ギフト、ギフト、」 Gift, Gift, 2021年11月3日〔水・祝〕→2022年2月20日〔日〕

ディレクターズメッセージ

八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」展のポスター

飢えや疫病という生命の危機を生き抜くために、人間は祈り、祭りを行ってきました。2010年に八戸ポータルミュージアム はっちの文化事業ディレクターとして八戸に通い始めて以来、私は八戸三社大祭などの祭りが、このまちの文化形成に大きな影響を与えているという確信を年々深めてきました。神輿行列に芸能が加わり、山車を人々が自らの手でつくり始めたことにより、世代を超えた多様な立場の市民が共に創るプロセスが祭りに埋め込まれました。こうして、祈りのための“創造”という“ギフト”は、人々を楽しませる“ギフト”となり、創造の場を支え合う“ギフト”の精神が育まれてきました。この創造の場は、創る喜びだけでなく、利他の心、孤独からの解放といった目に見えぬ多くの“ギフト”をもたらしています。一方で、“ギフト”は、利用されやすく壊れやすいものでもあります。私たちが“ギフト”を意識的に受け取り、次へと贈らなければ、この輪は簡単に途絶えてしまいます。新たな疫病の危機に直面する今、“ギフト”の心は、霧のなかの道を照らし出します。このまちが長い時のなかで育んだものは、100年後の世界を創造する種なのかもしれません。多くの市民の皆さんと共に創り、支えていただきながら、準備を進めてきたこの企画は、まさに“ギフト”の賜物です。ご協力いただきました皆さんに、心から感謝申し上げます。この“ギフト”が、ずっとずっとめぐり続けますように。

「ギフト、ギフト、」ディレクター 吉川由美
主催 八戸市美術館
協賛 南部電機株式会社
協力 一般財団法人 VISIT はちのへ、八戸三社大祭運営委員会、八戸三社大祭山車祭り行事保存会、はちのへ山車振興会
後援 NHK 青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、めんこいテレビ、八戸テレビ、デーリー東北新聞社、東奥日報社、エフエム青森、コミュニティラジオ局 BeFM

主催 八戸市美術館	ディレクター 吉川由美
協賛 南部電機株式会社	会場構成 西澤徹夫、浅子佳英、森純平
協力 一般財団法人 VISIT はちのへ、八戸三社大祭運営委員会、八戸三社大祭山車祭り行事保存会、はちのへ山車振興会	会場構成アシスタント 小泉立、宮武壮太郎
後援 NHK 青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、めんこいテレビ、八戸テレビ、デーリー東北新聞社、東奥日報社、エフエム青森、コミュニティラジオ局 BeFM	グラフィックデザイン 加藤賢策、奥田奈保子（LABORATORIES）
	イラスト 新地健郎
	浮世絵展示監修 小倉学（八戸クリニック街かどミュージアム館長兼学芸員）
	企画協力 柏井容子（八戸市教育委員会社会教育課主査兼学芸員）
	担当学芸員 大澤苑美、高橋麻衣、田村由衣

はじめに

「ギフト、ギフト、」は、八戸を代表する祭りである八戸三社大祭を出発点に、アートを通して“ギフト”の精神を見つめます。展覧会では、300年もの間続く八戸三社大祭を、“ギフト”ととらえるところから出発し、普遍的な視点で“ギフト”を思考することへと続いていきます。また、山車づくりの場のような、美術館らしい創造的な“ギフト”の場として、さまざまなプロジェクトを皆さんと実施していきます。

人類学者マルセル・モースは『贈与論』（1925）のなかで、「贈る」「受け取る」「お返しする」ことの循環によって成り立つ未開社会の交換儀礼や、人や集団の関係性を保つ互酬的なやりとりを“贈与=ギフト”ととらえました。この企画における“ギフト”もまた、モースが述べた経済行為では手に入らない「もの」や「こと」、そのやりとりを指しています。その特徴には、自分が受けた恩をその贈り主ではなく、次の誰かに時を超えて返していく性質があり、「ギフト&テイク」や「win-win」よりも拡張的、循環的な意味を込めて、タイトルを「ギフト、ギフト、」としました。八戸三社大祭に見られる、誰もが「贈り手」であり「受け手」であるようなあり方は、右肩上がりの成長に幸せを求める時代から変化した現代社会に示唆を与えるとともに、私たちの美術館が目指すアートのあり方と重なるものとなります。

1 祭りをめぐるもの

八戸三社大祭は、八戸の有力者たちが法霊社に天候回復を祈願し、享保6（1721）年にその感謝のしるしとして、法霊社（現在の神社）から長者山へ神輿渡御したことが起源となっています。やがて神輿行列に加わった町衆による人形屋台が、毎年趣向を凝らした山車へと変わって盛大さを増す一方、飢饉や疫病の時は小規模となるなど、時代に合わせて変化を遂げてきました。

この祭りに対して、大西幹夫は人々によって継承されてきた歴史という縦軸を描き、浅田政志は今の時代における人々のつながりという横軸をとらえています。八戸三社大祭では、神輿行列や民俗芸能、山車制作などの祭りに参加する人、その祭りを見る人、そして祭りを支える人など、さまざまな人々やコミュニティの関係が、今でもなお続いています。これからも歴史とつながりが編み出す“ギフト”の大きな広がりの中で、人々の想いがめぐり、未来へと受け継がれていくでしょう。

作品リスト

1-1 <p>八戸三社大祭絵巻（映像） 2021年／映像／17分15秒</p>	1-10 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 9 風流山車の登場 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-6 <p>浅田政志 塩むすび合戦 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-2 <p>榊本佳子 壺／林檎 2021年／陶／作家蔵</p>	4-2 <p>田附勝 みちのく十和田観光、ドライバー芋田孝政と娘・佳奈／青森県十和田市・洞内钣金塗装店、2021年7月 2021年／インクジェットプリント、額／作家蔵</p>	4-9 <p>田附勝 輝翔丸、ドライバー成田輝彦／青森県八戸市・八戸市美術館工事現場、2020年11月 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	7-3 <p>歌川国貞 助六 弘化4（1847）～嘉永5（1852）年／大判錦絵 3枚組</p>	7-12 <p>歌川国貞 五節ノ内 文月 天保14（1843）年頃／大判錦絵 3枚組</p>
1-2 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 1 法霊社（^{おがみ} 龍神社）の始まり 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	1-11 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 10 祭りの拠点 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-7 <p>浅田政志 青天のごみ退治 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-3 <p>榊本佳子 壺／貝 2021年／陶／作家蔵</p>	4-3 <p>田附勝 Junko丸、ドライバー漆戸淳一と妻・純子／青森県東北町・小川原湖公園キャンプ場、2021年7月 2021年／インクジェットプリント、額／作家蔵</p>	トトラックアンドン 街道美学 制作年不詳／アクリル板、金属フレーム／横町建材蔵	7-4 <p>歌川国貞 東海道五十三次之内 京 真柴久吉 嘉永5（1852）年／大判錦絵</p>	7-13 <p>歌川国貞 美伊達五節ノ花方揃^{わかくそらいまぢのなびろめ} 気名弘 一名ほめことば 文久3（1863）年／大判錦絵 5枚組</p>
1-3 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 2 八戸藩の総鎮守 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	1-12 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 11 人々を魅了する祭り 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-8 <p>浅田政志 祝 夢の共演 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-4 <p>榊本佳子 貝／壺 2021年／陶／作家蔵</p>	4-4 <p>田附勝 漁火慕情、ドライバー下田幸税／青森県八戸市・館鼻漁港、2020年11月 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	トトラックアンドン 八戸港 制作年不詳／ガラス、金属フレーム／横町建材蔵	7-5 <p>歌川国貞 東海道五十三次之内 京 石川五右衛門 嘉永5（1852）年／大判錦絵</p>	7-14 <p>作者不詳 鯰絵 自身除妙法 安政2（1855）年／大判錦絵</p>
1-4 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 3 初めての神輿渡御行列 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	1-13 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 12 八戸の宝、日本の宝、世界の宝 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-9 <p>浅田政志 門付の調べ 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-5 <p>榊本佳子 ホヤ／壺 2021年／陶／作家蔵</p>	4-5 <p>田附勝 風張建材、ドライバー風張幸夫／青森県八戸市・大伸盛場、2021年5月 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	トトラックアンドン 恋愛死闘 制作年不詳／ガラス、金属フレーム／横町建材蔵	7-6 <p>歌川国貞 十八番之内臺 暫 鎌倉権五郎景政 嘉永5（1852）年／大判錦絵</p>	7-15 <p>作者不詳 鯰絵 雨に八困ります野じゅくしばらくのそとね 安政2（1855）年／大判錦絵</p>
1-5 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 4 「出し」の登場 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-10 <p>浅田政志 華女神 湊に降臨し 鼻血 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	2-10 <p>浅田政志 門付の調べ 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-6 <p>榊本佳子 五重塔／壺 2008年／陶／作家蔵</p>	4-7 <p>田附勝 風張建材、ドライバー風張幸夫／青森県八戸市・大伸盛場、2021年5月 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	トトラックアンドン 横町建材 制作年不詳／アクリル板、金属フレーム／横町建材蔵	7-7 <p>歌川国貞 東海道五十三次之内 小田原箱根間 曾我の里 鯰坊主 嘉永5（1852）年／大判錦絵</p>	7-16 <p>柳亭種彦作 歌川国貞画 ^{にせむらさきいながばんじ} 彦紫田舎源氏 二十五編 天保9（1838）年頃／版本</p>
1-6 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 5 八戸商人の心意気 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-11 <p>浅田政志 火消麦茶振舞隊 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	2-11 <p>浅田政志 火消麦茶振舞隊 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-7 <p>榊本佳子 イカ／壺 2021年／陶、LED／作家蔵</p>	4-8 <p>田附勝 この木なんの木丸、ドライバー山田健／青森県おいらせ町・いちよう公園、2021年2月 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	6-1 <p>西澤徹夫・浅子佳英・森純平 八戸文化資源相関図 2021年／ミクストメディア／作家蔵</p>	7-8 <p>豊原国周 矢の根五郎 市川団十郎 明治15（1882）年／大判錦絵 3枚組</p>	7-17 <p>一筆庵主人（柳下亭種員）作 歌川国貞画 ^{そのゆかりなのおもちげ} 其由縁部 迺俤 十四編 安政3（1856）年／版本</p>
1-7 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 6 天明の大飢饉 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-12 <p>浅田政志 神支度伝説 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	2-12 <p>浅田政志 神支度伝説 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-8 <p>榊本佳子 波濤／皿 2021年／半磁／作家蔵</p>	4-9 <p>田附勝 この木なんの木丸、ドライバー山田健／青森県おいらせ町・山田種苗スギ園場、2021年7月 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	【前期 11月3日～12月20日】 7-1 <p>北尾政美 浮絵 江戸堺町芝居之図 寛政末（1800）年頃／大々判錦絵</p>	7-9 <p>歌川国貞 幡随長兵衛出迎え図 嘉永3（1850）年／大判錦絵 3枚組</p>	7-18 <p>歌川国貞 源氏絵物語 紅葉賀 弘化元（1844）年頃／中判錦絵</p>
1-8 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 7 騎馬打毬・流鏑馬の始まり 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-13 <p>浅田政志 超 かがやき姫 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	2-13 <p>浅田政志 超 かがやき姫 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-9 <p>榊本佳子 傘／皿 2021年／陶／作家蔵</p>	4-10 <p>田附勝 この木なんの木丸、ドライバー山田健／青森県おいらせ町・山田種苗スギ園場、2021年7月 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	7-10 <p>歌川国貞 役者化粧姿絵 河原崎権十郎 文久元（1861）年／大判錦絵</p>	7-19 <p>歌川国貞 今源氏錦絵合 紅葉賀 嘉永6（1853）年／中判錦絵</p>	7-20 <p>歌川国貞 源氏後集余情 廿二のまき 玉かつら 安政6（1859）年／大判錦絵 2枚組</p>
1-9 <p>大西幹夫 八戸三社大祭絵巻 8 三社の祭りへ 2021年／和紙、水彩／作家蔵</p>	2-14 <p>浅田政志 着付絵巻 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	2-14 <p>浅田政志 着付絵巻 2021年／インクジェットプリント／作家蔵</p>	3-10 <p>榊本佳子 Blue Birds／Blue Ceramics 2021年／半磁／作家蔵</p>	4-11 <p>田附勝 第五桜丸、ドライバー横町秋男と横町勝広と白いポニー／青森県階上町・横町建材、2021年5月 2021年／インクジェットプリント、額／作家蔵</p>	7-11 <p>楊洲周延 江戸砂子年中行事 七夕之図 明治18（1885）年／大判錦絵 3枚組</p>		

2 風流という精神

八戸三社大祭の豪華絢爛な「風流山車」は、コレラの流行が収まったことを祝うために、明治20（1886）年に始まったと言われています。地域の人々の手で毎年つくり替えられるこの山車の出現が、現在も続く創造活動を介したコミュニティを生み出しました。祭礼における「風流」は、中世以降に発展した華美で人目を引く趣向のことを指しますが、民俗学者の柳田国男は、この概念を生んだのは見物人の存在であると述べています。八戸三社大祭でも、観客という受け手が祭りの担い手に刺激を与えることで、山車は巨大化し、動きや演出を取り入れるなど、進化を続けています。風流の精神が育んだ「かざる」という創造行為は、時に目的や機能をはるかに上回る過剰さを備えています。それは、榊本佳子の陶芸や、田附勝が題材とした「デコトラ」にも共通しています。しかし、その過剰さは贈り手の想いのかたちであり、お金では買うことのできない“ギフト”なのです。

3 受け取ること

誰かが差し出したものが“ギフト”となるかどうかは、受け手のとらえ方次第と言えます。それは、ゲルマン語系の言語では「ギフト（gift）」が「贈り物」と「毒」という2つの意味を持つというモースの指摘にも重なります。八戸三社大祭が300年も続いてきたことは、人々がそれを“ギフト”だにとらえているからである一方で、大澤未来の作品は、受け継がれてきたものを次へと贈る責任は軽くはないことを映し出しています。また、祭りが明らかな“ギフト”であるならば、見過ごされた存在に光を当てるのもアートの役目と言えるでしょう。江頭誠は人々の不要となったもの、西澤徹夫・浅子佳英・森純平は八戸のさまざまな事象の関係性、八戸クリニック街かどミュージアムは祭りと浮世絵との共通性について、それぞれ独自の視点で価値を見出し、展示を通して受け手へと届けます。それらをどのようにとらえるかは、受け取る側の想像力に託されているのです。

4 現代社会のなかの“ギフト”

「ギフト」というと、一般的にはプレゼントや贈答品が思い浮かぶのではないのでしょうか。誰かから贈られたプレゼントはお金に代えがたいものでありながら、市場で流通する商品です。貨幣経済とギフト経済は切っても切れません。八戸三社大祭を見ても、経済状況が運営に影響を与えます。また、祭りを観光経済からとらえることは、その本質を大きく揺さぶります。まさにコロナ禍の2年間、祭りとは何かを考えることになりました。経済偏重だけではうまくいかないと感じながら、一方で、助け合いや物々交換だけで生きていけない私たちは、貨幣経済と共存し、社会をよりよくするものとして“ギフト”を重要視する必要があります。その時、ローカルから考え、行動していくことが力を持つのではないのでしょうか。田村友一郎、KOSUGE1-16、向井山朋子の3人のアーティストは、鮮やかに、アイロニカルに、また一方で可愛らしくこの“ギフト”を提示します。